

令和4年度 真和中学・高等学校 学校評価					
学校目標	「誠・信・望」の校訓のもとに「和」を重んずる豊かな人間性と、進んで「真」を追求する向学心と、社会に貢献しようという高い意欲を合わせ持つ生徒を育成する。				
具体的目標	○ 全教科・全領域で報恩感謝の心を育てる。		○ 言行に品位・品格が発露する態度を養う。		
	○ 基礎・基本の充実、自調・自考による真（深）の学力を培う。		○ 健全な身体・心の育成を図る。		
	○ 人への礼讓・勤労の智慧に通じる掃除の徳を体得する。		○ 登下校時の四恩塔一礼を定着させる。		
学校経営	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
	①募集・広報活動の充実（生徒数確保） ②教育課程の確立（新学習指導要領・探究活動の位置づけ） ③学力向上/生徒の希望の具現化 ④教師の指導に対する評価ポイントの向上（進路アドバイス・悩みに寄り添う）	①学校職員全体での、塾訪問実施と募集についての職員の意識向上。 ②新学習指導要領に対する意識の向上と新傾向問題への対応・運営委員会の活性化 ③教育課程・探究活動・学校行事の関連付け ④教育相談の柔軟な実施	①B ②A ③A ④A 総合A	①塾訪問では例年通りの回答が多かったが、熊本市中学校に入試制度説明に訪問できていないのが課題である。 ②各学年、責任が出てきており、学力向上目的の提案が迅速に行われている。 ③週テストの実施が職員の意識向上と学力向上につながっている。 ④2者面談と3者面談を適切に行うことで、生徒各人に寄り添う姿勢が多く見られるようになった。	①中学校より受験に対する問い合わせがあり、近隣の中学校には訪問すべきと考えている。 ②年間行事の中に全行事が組み込まれるよう関係各部署学年が連携を取り敏速な会議が必要である。 ③週テストを中学1年から高校3年まで拡大を考える。同時に、教師のスキルを上げるための研修が必要。 ④
校務分掌	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
① 総務部	①校務分掌や各学年との連携を深め迅速適正な処理を行い年度末や年度当初の企画立案をする。 ②年間行事や入学式、卒業式等の企画立案をする。 ③教具、用度品の購入管理、消耗品の管理について無駄をなくし効率的に使用する。 ④寮保護者会、育友会総会、役員会の企画立案し、保護者との連携、調整に努める。 ⑤学校要覧、真和通信、育友会だよりの編集、管理を行う。 ⑥全職員との共通理解のもとに教育計画の充実と達成に努力する。 ⑦学寮の寮生の生活について寮監と連携して行う。	①年度当初計画を2月中旬を目途に行う。 ②年間行事については・年度の12月までに各部より計画立案を行ってもらう。卒業式の計画を1月中に行い、2月中より全職員へ準備を行うように周知させる。 ③専門の事務職員が職員室に常駐することで教具、用度品の購入管理、消耗品の管理について効率的に行う。 ④新型コロナウイルス対策により、リモート会議を併用しながら保護者との会議を行う。 ⑤奨学生制度の見直しに対応しながら、真和通信、学校要覧を作製する。また、保護者会と協力して育友会活動の様子などを報告するような新聞を発行する。 ⑥教務部と連携し、芸術鑑賞などを企画する。 ⑦寮生の生活環境について寮監と連携して快適な環境づくりをする。	①A ②B ③C ④A ⑤A ⑥A ⑦C 総合B	①4月の始業式・入学式の日程を計画した。 ②各部署からの計画を出してもらい、日にちの調整を行った。 ③職員室常駐の事務員がいたが、12月より不在となってしまった。 ④育友会の会議ではリモートを併用しながら、新型コロナ対策をして行うことができた。 ⑤見直された奨学生制度を学校要覧や真和通信に記載した。育友会より学校HPに活動の様子をのせる予定である。 ⑥NHK交響楽団の4名の演奏者を呼び、教務部と連携して、スムーズに芸術鑑賞会を行った。 ⑦男子寮と女子寮とのルールの相違があり、共通したルール作りが必要である。	○令和5年度の行事予定を12月を目途に各部署より計画を行ってもらう。 ○職員室に常駐する事務員の配置をお願いする。教員が授業や生徒に対応しながらの消耗品を管理することは非常に困難である。 ○生徒が行事を通して、感性を磨いたり、様々な興味を引き出せるような企画をする。最新の科学や芸術に触れるようなものを企画する。 ○入学式や卒業式などの式典を無事に行えるように細心の注意を払う。 ○学寮については生徒指導の部分が多くを占めるため、生徒指導部による学寮の指導が望まれる。
② 教務部	① 6年間を見通した教育プログラムの確立 ② 新学習指導要領に適合した教育課程の確立 ③ 進級規定の見直し ④ 総合学習・探究の充実 ⑤ 模試の授業化 ⑥ 定期考査の位置づけ ⑦ 指導要録・出席簿、教務日誌の効率化 ⑧ 授業力向上 ⑨ 低学力生徒の指導の充実および学習習慣の確立	① 未実装の教科がある状態なので、要改善 ② 実施しながら改善点の模索 ③ 中学生にも赤点と追試を導入する ④ 大学入試のため(主に総合型合格のため)にどう役立たせるか ⑤ 模試の予習復習の徹底 ⑥ 考査間隔をすべて7～8週にして実施中 ⑦ デジタル化のソフトの導入(予算が必要) ⑧ 生徒アンケートの実施による授業改善 ⑨ スタサブを活用した中下位層へのスタサプクラブの実施, 中学校木曜1限の週テストの実施	①D ②A ③D ④B ⑤A ⑥A ⑦D ⑧A ⑨B 総合B	① 現場の教師の都合でカリキュラムが改変されている ② 現在高1年生で実施中。順調 ③ 話し合いを持てていない ④ 中2の学年が入学した時から実施中、2年後完成予定 中1が別企画を計画中 ⑤ 実施済み。順調 ⑥ 授業の効率化が図れている ⑦ 予算が必要であり、事務局とは未協議 ⑧ 1学期に実施。概ね良好な結果 ⑨ スタサブは高Ⅲのみカリキュラム化できているが、他学年は道半ばの状態。週テストは定着しているが、採点が回らない問題が未解決	①国数社理英は当然として、すべての教科で中高一貫のカリキュラムを、教師の都合で実施しないということが絶対ないようにする。 ③早急に会議をする。 ④学年によってやることが違ったりすることがないように、大筋は統一する。 ⑦出退勤や年休等、職員の動静をデジタルにする必要がある。他校と比較してもアナログに偏り過ぎている。 ⑨スタサブの活用法を各教科に任せるのではなく、学校全体の取り組みとして対応する。

校務分掌	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
③ 生徒指導部	①いじめの早期発見・早期指導 (毎月一回のいじめアンケート) ②SNS利用のマナー ③挨拶の励行 ④自転車通学のマナー (イヤホン、ながら運転等がないように) ⑤服装・身だしなみの徹底 ⑥コロナ禍での学校生活の充実 ⑦自転車通学生のヘルメット着用を薦める (10月1日より自転車利用者のヘルメット着用は努力義務となる) ⑧女子生徒がスラックスを履くことができるようになったことを伝えていく	①いじめアンケートの毎月実施による早期発見。 ②学年集会での専門家による情報モラル授業の実施。 ③正門での四恩塔一礼の徹底、気持ちの良い挨拶の実施。 ④登校下校時、左側通行及び交差点での安全確認の強化。下校の際、全員正門から左側への下校の徹底。イヤホン等の着用がないように徹底。 ⑤職員室等の入室時や各クラス、各授業担当者で、該当生徒への指導を行う。 ⑥廊下・教室で大声を出さないこと、昼食時の黙食の徹底。 ⑦熊本市、熊本中央署と協力し、キャンペーン活動を行う。 ⑧生徒会の生徒をモデルとし、浸透させていく。	B	①毎月一回のいじめアンケートや二者面談だけでなく日常生活にも注意をし、気になる生徒には早期に声かけなどを行った。 ②各クラスや学年で定期的な呼びかけや学年での情報教育を実施し、大きな問題はなかった。 ③正門での四恩塔一礼は登校時は良くできていたが、下校時には差があった。 ④下校時に正門から右側通行で出ていく生徒は減ったが、まだ完全ではなく、次年度の課題である。 ⑤ほとんどの生徒がよくできていたが、一部でネクタイやリボンの緩み、第一ボタン外れの生徒もあり、今後も継続した指導が必要である。 ⑥コロナ禍に慣れてきたせいか、一部徹底できていない場面があった。 ⑦他校に比べ、ヘルメット着用率が高かった。 ⑧着用の問い合わせが増えてきた。	①次年度も引き続き実施し、早期発見に努めたい。 ②外部からの講師も依頼したい。 ③概ねできていたので、呼びかけも続けたい。 ④安全管理の面から生徒指導部の正門指導も強化したい。 ⑤先生により差が出てきているのが現状。先生への呼びかけも強化していく。 ⑥今後の状況はわからないが、他校とも連携を取り、実施していきたい。 ⑦引き続き、命を守るために呼びかけを続けたい。 ⑧LGBTQ問題にも取り組みを進めたい。
④ 進路指導部	①中高一貫6カ年教育の中での進学・進路指導カリキュラムの構築 ②中等部・高等部の進路指導面での連携 ③高大接続改革の中で始まった思考力・判断力・表現力を求められる「共通テスト」や「新大学入試」に関する情報共有とその対策 ④「総合型選抜」、「学校推薦型選抜」に個別対応可能な組織作り	①現高校Ⅰ年生より新課程入試が始まる。本校の現状をしっかりと把握し、更なる飛躍を視野に入れ生徒達の実態に合ったカリキュラム作り、課外実施計画が進行中である。 ②今年度より中学部で英語・数学の週テストが始まった。採点は全教科担当で当たり、中学部の英語・数学の現状把握そして対策が進んでいる。対外模試について、全国の受験校・レベル・出題範囲など再検討した結果、今年度は高校Ⅰ・Ⅱ年でも中高一貫校用ハイレベルZ会アドバンス模試を導入。実施前のトレーニングから開始している。 ③「Public」進路フォルダーを活用し、情報共有を行った。今年度も10月3日より夕課外時間帯に、大学別・志望学部別入試教科特別対策授業を行っている。 ④小論文・面接・集団討論等の指導について、昨年度同様個別対応を実施している。	①A ②B ③A ④A 総合A	①現高校Ⅰ年生より新課程入試について文部科学省の発表事項や大学入試センターより公開された共通テストの試作問題等、教員間で情報共有を行った。新課程に向けたカリキュラム作り、課外実施計画については、教務部とともに企画中である。 ②中学部で英語・数学の週テスト実施の結果、学力推移調査模試の成績が大きく伸びた。学習習慣の確率、基礎力向上に寄与していると判断される。また、採点は全教科担当で当たることで、中学部の英語・数学の現状を全教員で把握することができている。今年度は高校Ⅰ・Ⅱ年でも中高一貫校用ハイレベルZ会アドバンス模試を導入し、先取り教育の効果を確認している。 ③「Public」進路フォルダーを活用し、情報共有を行った。今年度も10月3日より志望大学・学部別入試教科特別対策課外授業を行うことができた。 ④今年度も昨年度と同様、小論文・面接・集団討論等の個別指導が積極的に行えた。	①中高一貫6カ年教育の中での進学指導・進路指導カリキュラムの構築 ②中等部・高等部の進路指導面での連携 実施する模試の選定および模試実施前後の対策・復習の定着 ③新課程入試に関する情報共有とその対策 ④「総合型選抜」「学校推薦型選抜」、そして更に増加している大学独自入試への個別対応
⑤ 保健体育部	①健康意識の高揚を図る ②基本的生活習慣の確立 ③安全・安心な教育環境づくり ④新型コロナウイルス感染症の対策	①保健講話や検診を実施し、保健だよりを配布 ②中学生は、能率手帳を活用した担任指導と保健の授業を通じて教科担当者による指導、高校生は、HRでの担任指導、保健と体育の授業を通じて教科担当者による指導 ③保健委員による水質検査や健康チェックカード、施設・設備の安全点検、美化委員等の環境美化活動 ④消毒・換気・マスク着用、三密回避の指導と声掛け	①A ②A ③B ④A 総合A	①保健講話や検診は、感染症予防対策を徹底し、実施することができた。保健委員が工夫して作成した保健だよりを配付でき、意識の向上につながった。 ②能率手帳により、自分や家族の体調に配慮した部分が見られ、自分の時間を有効に使う工夫をする生徒が増えたように感じた。 ③保健委員や美化委員の活動は前向きに評価できるが、環境美化について他人まかせの生徒が見られ、対策が必要と感じた。 ④マスクの着用や消毒、換気については、意識しなくてもできるようになっていると思う。	①例年通り保健講話や検診を実施し、保健委員の活動も継続していきたい。 ②生徒へのアプローチの仕方を工夫したい。 ③環境美化についての啓発活動を工夫したい。 ④三密回避の工夫が必要。

校務分掌	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
⑥ 募集入試対策部	①志願者増を目指した中学入試の改革。 ②塾訪問等による広報・募集活動の強化 ③「学校案内」「生徒募集要項」での正確でわかりやすい情報の提供及び学校・塾等への速やかな資料提供 ④入試説明会や各中学校の説明会での広報内容の充実 ⑤H Pに学校行事等の最新の情報を掲載し魅力ある学校の広報に努め、入試説明会やWEB出願についての周知を図る。	①中学校の奨学生制度を改革し専願生入試を2科目および面接とし志願者増に繋げる。 ②「学校案内」完成後の速やかな塾訪問による広報活動と良好な関係の構築 ③「学校案内」「生徒募集要項」の期限内の制作及び正確な情報の掲載。県内の中学校、教育機関への速やかな資料発送。 ④各説明会での説明内容を工夫して真和をアピールする。 ⑤入試説明会や入学試験についてH Pに早期掲載し周知を図るとともに最新の情報の掲載して真和の魅力を発信する。	B	①中学において奨学生の1年見直しを改め、複数年継続することで魅力ある奨学制度とし、専願生試験の科目減で受験しやすい制度とした。 ②オープンスクールが参加希望多数のため熊本城ホールに変更となったが、全職員の協力のもと円滑に実施し好評であった。第1回入試説明会は台風のため延期となったが延期後の実施においてはトラブルもなく開催できた。 ③各塾について担当者を決め、直接訪問して本校の魅力についてご理解いただき各塾の生徒に伝えていただけるように資料を提示して丁寧に説明した。 ④説明会等のお知らせ事項は、H Pへの早期掲載を心がけ情報の周知を図った。	①今年度は「学校案内」が6月の私立中学合同説明会までに完成しなかったため、中学版の「学校案内」作成して対応した。次年度は、今年の12月中に業者を決定し、来年1月から「学校案内」の作成に取りかかり6月の説明会前の完成を目指す。 ②オープンスクールについては会場変更がないように、適切な定員の設定を行う。 ③塾訪問は「学校案内」が完成次第、定期考査の午後等を利用して資料持参で訪問し、最新の情報を届ける。
⑦ 事務部	①就学支援金のオンライン化への対応 ②来年度制服販売等における物価高騰への対応	①私学振興課からの逐次の情報収集、保護者等への情報提供、計画的なシステム構築と質問等への対応 ②制服等の早期見積依頼、価格低減のための業者との調整	A	①私学振興課と連携を図り、オンライン申請への対応を図った。 ②業者と調整し、可能な限り価格の据え置きが実施できた。	①オンラインの不具合について引き続き対応していく。 ②価格の据え置きが実現できるよう、引き続き業者と調整していく。

4段階評価	A：大いに改善あり B：だいたい改善あり
	C：やや改善なし D：全く改善なし

学年経営					
中学	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
中学校 1年	①真剣な学習 ア 基本的な学習習慣の定着 イ 授業規律の徹底 ウ 基礎的・基本的な学習内容の定着 エ 思考力・判断力・表現力の育成 ②調和した生活 ア 基本的な生活習慣の定着 イ 自主的・自律的な5分前行動の意識化 ウ 生徒の相互理解と人間関係づくり エ 「気づき・考え・実行する」態度の育成 ③その他 ア 教師の協働 イ 保護者との連携	①真剣な学習 ア 掲示板・手帳の活用による自律的な学習準備 イ 話を聴く態度、学習課題に取り組む態度の徹底した指導 ウ 各授業及び週テストにおける反復指導 エ 実態に応じた発展的な学習の指導、各教科及び総合学習エナジードにおける課題解決学習の取組 ②調和した生活 ア 手帳の活用によるPDCAの習慣づけ イ 見通しをもって行動するための声かけの工夫 ウ 生徒の相互理解と人間関係づくり エ 特別活動等を通じた「気づき・考え・実行する」態度の育成 ③その他 ア 学年目標、日常の指導方針の共通理解と2人担任制による共通実践 イ ホームページ、Googleクラスルーム等による保護者との情報共有	B	①真剣な学習 アA イA ウA エB 基礎的・基本的な学習内容の定着に一定の成果を上げることができた。 ②調和した生活 アA イB ウB エB 基本的な生活習慣の定着には成果が見られたが、主体的な態度の育成にはまだ不十分な点もある。 ③その他 アA イB 生活面、学習面、保護者との連携において、2人担任制が効果を上げた。	①真剣な学習 ・学習進度や理解の速い生徒への発展学習等の手立ての一層の充実 ・スタディ・サプリの個に応じた活用の工夫 ②調和した生活 ・より主体的な特別活動等の取組の工夫と生徒のリーダーシップの育成 ③その他 ・育友会との一層の連携
中学校 2年	①基礎学力の定着と向上を図り、次年度の高校学習内容にむけての充実した授業展開 ②主体的に学ぶ姿勢を身につけ、模試等での結果に結び付けていく ③総合学習の充実 ④週テストの活用 ⑤マナーを守り、落ち着いた学校生活を送る ⑥正しい服装と挨拶の徹底を図る	①計画的な定期考査への準備と継続的に取り組む習慣を身に付けさせ、各教科と連携を図り、次年度に繋げる。 ②総合学習、週テスト、対外模試等を活用し大学入試を見据えた取り組みを進める。 ③エナジードを活用し、プレゼンテーション能力、考える力をつけていく。 ④数学科、英語科と連携を図り、指導を徹底していく。 ⑤基本的なマナーが自分で判断ができるように、各HRで伝えていく。 ⑥正しい服装の着こなしと気持ちの伝わるより良い挨拶を心掛けさせる。	B	①考査範囲を出来るだけ早く周知し、時間に余裕を持って取り組むよう考査ごとに指導を行った。 ②授業には常に緊張感を持たせ、教科担当との情報共有を行い、実行することが出来た。 ③総合学習の授業を通して多くの活躍の機会を作ることができた。 ④非常に効果的に進めることができた。 ⑤朝礼や終礼時に、コロナ禍での生活であることを常に話し、マナーを守り、みんなが過ごしやすい生活を心がけた。 ⑥服装は立派であった。日常の挨拶は、全体的に声が小さかったと感じている。	①次年度も早めの動きをとり、取り組みを進めていきたい。 ②ある程度の結果は出たが、満足することなく、更に強化を図っていく。 ③卒業論文に向けて良い準備を進めていく。 ④今年度同様の取り組みを行いたい。 ⑤今年度同様、マナーに関する話は常に続けていきたい。 ⑥服装の徹底、挨拶の大事さを更に伝えていきたい。
中学校 3年	①高校課程の基礎内容の定着と家庭学習の継続を図る ②習熟度別クラスにより、基礎学力の定着と向上を図る ③学習面・生活面において主体性、積極性を養う ④中学最上級生として、模範になるような服装と挨拶の徹底を図る ⑤大学入試を見据え、将来の進路にむけ、自己理解を図る	①毎時間の授業に集中し、計画的かつ継続的な家庭学習を心掛けさせる。 ②週テストやスタディーサプりと連携した取り組みを行う。 ③話し合いの場や活動をする機会を多く設け、適宜必要な助言を行う。 ④身だしなみを整えと礼儀正しい挨拶を心掛けさせる。 ⑤興味のある分野を探究したり、進路講演会などで先輩の体験談を聞く機会を設ける。	B	①定期考査ごとに反省させ、必要な生徒には二者面談を行い定期的に指導した。 ②週テストの補習はとても効果があったが、スタディーサプリの活用には個人差があった。 ③行事の運営や取り組みについて、実行委員会を中心に積極的な話し合いができた。 ④制服の着用はとても良かった。自発的な挨拶ができる生徒が少なかった。 ⑤進路講演会で、先輩の話を聞くことで、意識が高まりとても良かった。	①学習時間を増やし、より主体的に取り組ませたい。 ②予習にも、十分な時間をかけるようにさせたい。 ③行事だけでなく、授業の中でも積極的に取り組ませたい。 ④自ら気持ちの良い挨拶ができるよう、HRなどで伝えていく。 ⑤自分の進路について、考える機会を多く作っていきたい。
4段階評価				A：大いに改善あり B：だいたい改善あり C：やや改善なし D：全く改善なし	

学年経営					
高校	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
高校 1年	①新たな高校生活を新たな気持ちでスタートさせる。真和高校に親しみ、先生方や友人との新たな関係を築く。 ②高校生活に慣れ、高校での学習の習慣を確立させる。 ③自己を分析し自分の適性を見極め将来の目標を立て、今年度末には文系・理系コースの選択。 ④2024年度の大学入試について、2025年度からの新大学入試について生徒・保護者と情報を共有する。 ⑤修学旅行の計画実施	①2・5・6組生徒対象オリエンテーション実施。校内案内、各部の先生方の講話。各教科の先生方の紹介とともに、実際に各教科の予習・復習等の学習体験実施。 ②英語・数学の学習習慣確立のため4月より全クラス放課後15分程度の週テスト開始学習習慣の定着を図った。現在も継続中。 ③10月「学びみらいPASS」受験。現在の興味関心事柄からの適性学問分野、適性職業の客観的データを確認させた。 ④コロナ禍の中、感染予防を行い保護者参加で講演会を実施。 7月高校Ⅰ年進路講演会。 9月熊本県副知事木村氏講演会 11月文系・理系コース選択説明会。2025年度の新大学入試に関する情報共有。 12月進路分析講演会 ⑤3コースの選択制にすることで、コロナ対策、生徒の満足度を高める。	①A ②A ③B ④A ⑤A 総合A	①高校生としての学習習慣や勉強方法を身に着けると同時に、高校の楽しさ持ってもらう ②毎週数学と英語を実施した。数学は進研模試の基本問題を解くという目標設定で行い、結果に反映することができた。 ③学び未来パスを実施したが、講演会が遅くなってしまった。 ④受験に関する講演会、進路決定に関する講演会を行い適切に情報提供、情報共有を行った。 ⑤京都・金沢、京都・東京、京都・北海と分け、生徒の学びたいことコース選択することで修学旅行を主体的に考え取り組むことができた。	①学年と教科での十分な意思疎通があるとより効果的になると思う。 ②行事の影響で延期や中止になったので、行事予定の頻繁な確認が必要。 ③10月以降、講演会等が立て続けに行われるので、講演会の日程調整を早めに計画。 ④Zoomを活用しより多くの保護者にも話を聞いてもらうことができた。 ⑤コロナ対策をより計画的に行う。
高校 2年	①自主的に取り組む学習習慣の定着。 ②中堅学年としての自覚、風格を養う。 ③入試制度に向けての情報共有を行なう。 ④主要教科の基礎力、応用力の養成。 ⑤修学旅行の計画実施。 ⑥小論文指導の実施。 ⑦英語ライティング指導の充実。	①自学用の教材を紹介したり、提供したりして計画的学習を支援する。 ②マナーやモラル、ルールを守る意識づけを行うとともに、挨拶を励行する。 ③学年集会や進路からの講話を計画することにより、生徒自ら情報収集する意識づけを行う。 ④英語の週明け確認テストを継続実施。Z会アドバンスト模試の実施や、受験者対象に国、数、英の講座を各3回実施。国語特別講義や河合塾特別講義を進路部と連携して実施。 ⑤感染予防対策と安全実施の計画。 ⑥小論文模試の実施後、講評を講師に依頼し、課題点を踏まえてリライトを実施。 ⑦ライティングメソッド課題の実施。	①B ②B ③A ④A ⑤A ⑥A ⑦B 総合B	①教科やコースの特性もあり、一律実施はできなかった。生徒一人一人の自覚を促すことが必要。 ②職員間で意識の差があった。チームで取り組む難しさを感じた。 ③進路指導部からの情報提供があり助かった。講師の選定もよかった。 ④生徒の意識と定着度の両面において二極化が進んだ。自主的に取り組むことができる生徒については、学校からのサポートはもはや不要である。一方そうでない生徒は依然、自ら取り組むことができない。 ⑤病人対応は職員での連携がうまくできた。 ⑥学年で小論文指導の係を設けたことで、学年会での計画提案や事後処理などができた。 ⑦パソコン室の確保に調整が必要だったが、アカウント登録がうまくできない生徒の対応に迫られた。	①高Ⅲでは目標が決まれば環境に助けられながら自主的に取り組む生徒は増えそう。職員からの適切な助言を期待したい。 ②学年会で確認したことはクラス間での差が生じないよう協力を要請したい。 ③進路指導部との連携を今後も図りたい。 ④自らの課題を見つけ出し、計画と戦略を練るよう指導したい。 ⑤学年会での生徒情報の共有に努めたい。 ⑥志望理由書の書き方指導を1学期中に実施したい。 ⑦課題への取り組み方や課題の提出方法は分かったと思うので、個人の進路に応じて今後も利用させたい。
高校 3年	①受験に向けた学力の充実 ②受験への意識を早い時期に変える ③志望大学・学部・学科の合格可能性を意識させる ④最終志望校の決定 ⑤進路指導部との連携	①受験を意識した授業展開。放課後等のレベル別指導。 ②外部講師(予備校等)を招き、受験生の自覚を持たせる。 ③模擬試験のデータを活用し、学力の到達度を意識させる。 ④志望を軸に幅広く提案を行い、最終志望校を決定させる。 ⑤入試前、小論文指導・面接指導を全先生方へお願いする。	①A ②B ③B ④A ⑤A 総合B	①3年へ進級直後から、各教科が受験問題を取り扱い各クラスの実力に合わせたレベル別の授業を行った。また、11月から夕課外ではクラスを解体し生徒の実力・目標に合わせた授業を行った。 ②1年間7回の国語の特別講義と、夏に河合塾の英語・数学の講義を開講し、受験への意識改革と受験に必要なレベルの意識づけをした。 ③主に、春の二者面談・夏の三者面談を通して、本人の現在の力と志望校合格に必要な力とのギャップを意識させ、対策を提案した。 ④最終志望校・出願校決定に至るまで、冬の二者面談・三者面談の繰り返しにより、生徒・保護者の納得できる最終志望校の絞り込みを行った。 ⑤共通テストを挟み、秋から冬にかけて学年団以外の先生方にも多くの負担をおかけしたが、合格した際、全体で喜ぶ光景があった。	①可能な限り習熟度別の授業展開が出来れば更なる効果が期待できる。 ②外部講師(予備校等)の講義への参加を課外等に組み込み、参加者が少数になっていかないように工夫することが必要だと思われる。 ③模擬試験の結果が悪い場合に、現実から目をそらしてしまいがちなタイプの生徒へは、踏み込んだ具体的指導が必要。 ④担任にとっては厳しいスケジュールとなるが、現状維持のまま最終志望校決定までは面談を繰り返し行う。 ⑤全先生方に負担が及ぶが、高3学年団だけでなく全員で受験生をサポートできる体制づくりは、今後さらに進めていく方が良い。

4段階評価	A：大いに改善あり　B：だいたい改善あり
	C：やや改善なし　　D：全く改善なし

教科指導					
高校 教科	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
国語	① 国語への興味・関心を持たせる。 ② 基礎的な国語力の育成を計る。 ③ 進路希望達成のための国語力を育てる。 ④ 自己の考えを効果的に表現できる力を育成する。 ⑤ 本校入試問題作成手順の確立し、早期の作成を目指す。	①授業へ電子機器を利用するための工夫と準備。 ②教材の精選。 ③高Ⅰ新課程「現代の国語」「言語文化」の授業内容の研究。 ④基礎事項（語彙・文法事項等）の反復学習。作文や俳句などのコンクールへの参加。 ⑤入試問題については、4月に作成計画を立て、夏休み前には素材文を決定し、8月からは問題検討に入る。	B	①高Ⅰ、Ⅱでは、電子機器の利用ができた。 ②教材の精選、基礎事項の反復については、課題が残る。高Ⅲになっても十分とは言えない状況がある。 ③高Ⅰの新課程の授業内容については、一応の成果が出ている。 ④今年度も作文や短歌、俳句コンクールで入賞できた。 ⑤入試問題の作成については、早めの準備ができたが、作成方針は年度初めに示していただきたい。途中からでは変更は難しい。	①新課程「文学国語」「論理国語」「古典探求」の授業内容の研究。 ②新課程入試に係る問題研究。 ③入試問題作成については、今年度の作成計画を継続し、早めに完成できるようにする。
地歴公民	①基礎的な知識を身につけ、理解を深める。 ②社会事象に、興味関心を持ち、主体的に考え、行動する力を養う。 ③近年の入試において、「複数の資料から傾向や規則性を読み取る力」「時間軸と空間軸をふまえた事象をとらえる力」が要求されている。単なる知識ではなく、思考力や判断力を身につけさせる指導を行う。	①授業内容の工夫に取り組み、基礎的な知識を習得できるように指導する。 ②新聞やテレビ、インターネットなどの情報を授業に活用し、世界や日本国内の動向に目を向けさせ、興味関心を持つように指導する。 ③科目ごとに入試情報を共有し、生徒の進路目標達成に役立たせる。	B	①②各科目ごとに、新聞や視聴覚教材等を用いて、授業内容を工夫し、基礎的な知識を習得させることができた。 ③各科目ごとに、入試情報を共有し、ある程度できているが、まだ十分ではない。	①②各科目ごとに、授業内容を工夫し、さらに改善点を見つけ出し、努力を重ねたい。 ③入試情報を共有し、新課程入試に係る問題研究を行う。
数学	①生徒の、高校数学への興味関心を高め数学的な考え方を育てる。 ②各自の進路希望を達成できる、数学の学力を養成する。 ③各コース間の情報を共有することで教職員相互の連携を図り、効果的な生徒の育成につなげる。	①授業内容の工夫に取り組み、数学オリンピックや数学甲子園等へのチャレンジを促し、数学の学習への関心を高める。 ②基本となる授業内容の質を高め、教材の精選を図る。 ③入試情報などを共有し、生徒の進路達成に役立たせる。 ④高校1年生は夏休みを利用して課題研究の取り組みを行い、レポートを提出させる。	B	授業への取り組みを通して、生徒の数学への関心を育てることはある程度できているが、まだ十分ではない。コースごとの異なる進度、取り組む教材の難易度に差があるので、担当の教師の創意工夫が一層必要となる。高校1年から始まった新学習指導要領への対応は生徒の状況を見ながら対応が進められた。教員間の共通理解をさらに進めて次年度に繋げたい。	本年度の体制を継続してさらに生徒の数学力の向上につなげたい。新学習指導要領への対応が、学年進行で進むので全国の状況を注視しながら対応していく。高Ⅰに課している夏休みの課題研究は生徒の意欲向上につながっていると思われる。次年度以降もぜひ継続したいので冊子印刷への予算支出をお願いしていきたい。
理科	①実験、観察を通した思考力を高める授業 ②進路目標達成のための学力の保障	①実験器具の整備と実験内容・問いの工夫、感染対策。 ②低学年からの学習習慣定着と授業の質の改善、高学年での演習の徹底。	B	①実験器具の整備は少しずつ行っている。実験内容や問いの工夫、感染対策とも各科目で取り組んでいる。思考力を高める授業については、各教師が自主的に取り組んでいるが、教科として統一した取り組みには至っていない。コロナ前に比べて実験の実施は慎重にならざるをえない状況が続いた。 ②低学年からの学習習慣については、物理、化学、生物とも授業の中で指導したり、課題を出すなどして定着を図っている。高学年での演習はしっかり行っているが、生徒たちの中での取り組みの差は生じているようだ。	①実験器具の整備について、何が不足しているか、各科目ごとに出してもらい、購入を計画的に進めて行きたい。新型コロナウイルスの状況が落ち着いたら、実験・観察をより活発化し、探究的な授業や思考力・創造力を養う授業形態を工夫したい。 ②進路実現のために理科が貢献できる点が多い。日ごろから科学的に考察する習慣をつけ、各個人の能力に応じた学習習慣や演習の徹底を工夫する。

高校 教科	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
保健体育	①体力の向上 ②基本技術の向上 ③事故やケガの予防・防止に努める ④感染症予防・対策	①準備運動や補強運動、ランニング、体づくり運動を積極的に取り組む ②基本の大切さを理解し、反復練習を根気よく実践する ③体育用具や施設・設備の点検、ウォーミングアップやクールダウンの実施、休憩や水分補給の励行 ④情報収集と密の回避、マスク着用、手洗いの徹底	①A ②B ③A ④A 総合A	①準備運動や補強運動の時間を多めに取り、毎時間必ずランニングを実施した。グラウンドが使えなくても階段や体育館の観覧席などを工夫して使い、体づくりに取り組んだ。全体的には評価できるが、準備運動中や体づくり中にけがをした生徒がいた。 ②担当者によって統一できていなかった。 ③ボールの補充やコートに移設など実施できた。準備運動、休憩、水分補給は十分に実施した。 ④意識して声かけをし、注意喚起も積極的に行った。	①③④は、継続して取り組む。 ②年度初めに再確認し、統一する。
外国語	①大学入試「新テスト」に対応するカリキュラム・教材の充実 ②小中接続及び中学校入試方式の研究 ③英語関連大会参加及び外部検定試験への取り組みの活発化	①ALT（外国人指導助手）を活用し、4技能5領域スキル獲得のためのAL（アクティブラーニング）を充実させる。 ②次年度に控える英語中学入試作成に備え、小学校英語教育の実態を研修し、適切な入試形態と中学教育への接続を図る。 ③ディベート大会、スピーチコンテスト等で全国大会を目指、外部検定(GTEC)での高スコアを目指す。	①A ②A ③A 総合A	①ALT（外国人指導助手）を2名体制にしての2年目で、 ③で後述のように、全般的な領域にわたる英語の技能を獲得した成果が表れるようになってきた。 ②左記の目標のため、1学期に小学校3校を訪問し、小学校英語教育における評価軸と評価法を研修した。それを踏まえて2学期から具体的な試験法と必要なデバイス等について検討を始め、3学期末に実施要項を作成する予定にしている。 ③今年度のGTECはまだ成績表が届いていない。ディベート大会ではHEnDA（準備型）が県大会3位、PDA（即興型）が全国大会に出場し、2勝2敗だった。	②来年度は中学入試で英語を導入予定であるため、アドミッションポリシーと実施方法の具体化が課題。加えて①をさらに充実させるために、ALTの常勤化をぜひお願いしたい。
家庭	①自立の基礎を固める ②共生を学びあう ③現代社会に対応できる力をつける	①基礎基本の徹底 ②実習・実験内容の精査 ③研修・研究の実施	①A ②B ③A 総合A	本年度よりⅠ年生での授業が1時間となり、探り探りでの実施だったが、食生活・保育を中心に家庭科の基礎基本を身につけるような授業ができた。 実習については、コロナ渦で学校での実習はなかなか実施できなかった。 研修は昨年に引き続き、認知症フレンドリー社会に生徒たちがアップデートできるような教材研究に取り組んだ。	来年度より、高Ⅰでの基礎基本の授業に加え、高Ⅱで、実習・実技を中心とした内容の習得に努める。衣生活、家庭生活や住生活、消費生活分野で実習を取り入れ、学習活動が充実するよう、教材研究等に取り組みたい。そのために実技用の教材の購入や、外部で実施されている、家庭分野の講座の活用等検討していきたい。
情報	①情報Ⅰへの移行を踏まえ、指導内容の精選を図る。 ②また、ICT環境の整備を充実し、教科情報の基盤作りを強化する。 ③各教科での情報活用能力育成をにらんだ基礎的な技能や思考力を更に充実する必要がある	①プログラミング言語の教材導入を行い、主にwebデザイン言語を中心に、高校3年生及び2年生に重点的に指導を行っている。 ②一人1台のタブレットPCの導入が完了し、文部科学省の指定を受け、中学英語の学習者用デジタル教科書を導入した。 ③探究活動を積極的に取り入れ、その際にICT環境が積極的にいかす授業展開を積極的に行った。	①B ②A ③A 総合B	①情報の共通テスト導入を踏まえ、プログラミング言語領域とデータ分析の領域の強化を計画的に更に図るべきである。 ②ICT環境を情報の観点から整備が急速に進んだ。今後は一人1台の環境が通常の授業形態に日常的に生かされるように方策を構築していくべきである。 ③多様化する大学入試に対応していくためにも探究学習で得た知見や、ICT活用の経験は様々な場面で活用していくように企図していくべきだと考える。	①「情報Ⅰ」のシラバス作成 ②R5年度に文部科学省による実証事業で参加予定の「学習者用デジタル教科書」の積極的活用を中心に一人1台の環境を充実させていきたい。 ③各学年の探究活動と「情報Ⅰ」及びICT環境等を積極的に関連付けて、横断的な取組の充実を図りたい。

4段階評価	A：大いに改善あり　B：だいたい改善あり
	C：やや改善なし　D：全く改善なし

教科指導					
中学 教科	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
国語	課題 ①基礎的・基本的な学習内容の定着 ②思考力・判断力・表現力の育成 ③学習意欲の向上 目標 全生徒が中高一貫の6年間で進路実現につながる国語の学力を身に付ける	①基礎的な語彙力、漢字力を育成に継続的に取り組む ②発展的な内容の学習や表現活動の場を設定し、系統的な先取り学習を行う ③系統的・計画的な家庭学習の課題の工夫を行う	B	①B ②B ③B 中高一貫の6年間を見通し、計画的に指導を行うことができた。	①学習成果の確認の機会をより多く設定する ②他教科等との連携を図り、学習活動の一層の充実を目指す ③より意欲的に家庭学習に取り組むような課題設定を行う
社会	①社会事象に関心を持ち、主体的に考え行動する力を養う。 ②図版や映像資料をもとに、内容を把握し、分析し考える力を養う。 ③地理分野と歴史分野に関して、高校での地理総合と歴史総合の学習に繋がるよう、基本的な知識を見につけ、理解を深める。	①社会事象について、新聞やテレビ、インターネットなどの最新の情報をもとに授業時に取り扱い、教科の学習だけでなく、世の中の出来事についての興味関心を持つように指導する。 ②地理分野・歴史分野・公民分野の知識・理解を断片的なものとすることなく、生徒たちに、世の中の出来事を考える上で「活きた知識・理解」とするために、随時、調べ学習や意見交換、発表の場を設ける。	B	①地図や史料を、プロジェクターを活用しながら解説することで、より深い理解につなげることができた。 ②各クラスにある新聞等を用いながら、適宜時事問題を取り扱い、生徒の興味関心を深めることができた。	図版や映像資料等を使って、基礎的な知識を確かなものにする。その基礎的な知識を土台として、社会事象に関心を持ち、主体的に考え行動する力を身につけさせたい。
数学	①生徒の、中学校数学への興味関心を高め数学的な考え方を育成する。 ②6年間の指導とその後の各自の進路希望を見据え、進路希望が達成できる数学の学力を養成する。 ③各クラス間の情報を共有することで教職員相互の連携を図り、学年全体として効果的な生徒の育成につな	①授業内容の工夫に取り組み、数学オリンピック、数学検定等へのチャレンジを促し、数学の学習への関心を高める。 ②基本となる授業内容の質を高め、教材の精選を図る。 ③生徒一人一人が、数学の学習を通して成長できるように指導の取り組みを工夫する。 ④週テストの実施を、生徒の数学の学習意欲向上に繋げる。	B	授業への取り組みを通して、生徒の数学への関心を育てることはある程度できているが、まだ十分ではない。生徒間の学力差、意欲の差、取り組む姿勢に大きな差が見られ、担当の教師の創意工夫が一層必要となる。週1回の確認テストは、職員の負担が大きいが、生徒の基礎学力の定着につながっている。教員間の共通理解をさらに進めて次年度に繋げたい。	本年度の体制を継続してさらに生徒の数学力の向上につなげていく。中学生にどのレベルで指導するか、教材の選定も含めて今後の課題であるので継続して検討を進めていきたい。確認テストへの対応や課題等の内容についても教科全職員の協力に対応を進めたい。
理科	①科学的興味関心の向上 ②科学的思考力の養成 ③科学的態度や知識の積極的な習得	①視覚的な教材をより多く使用する ②実験観察を中心に授業を展開する ③実験観察から見える法則性を見出す能力を高めるように、レポートやノートの手書き方の指導を行う	①B ②B ③A 総合B	①展示実験をして具体的な現象を見せたが、器具の不足でビデオなどで補った。 ②実験室でできるだけ、実験実習を行たったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、実験が行えなかった。 ③レポート指導を行い、実験のまとめ方の指導を行った。	○教科書の内容だけでなく、より高度な内容や興味を引くようなことを授業に取り入れる。 ○授業をより理解しやすくする実験を計画する。 ○実験用具を揃えること。 ○実験レポートの作成や他の人への説明を生徒が行う。 ○自主的、創造的な学習方法を行う。

教科指導					
中学 教科	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
保健体育	①体力の向上 ②基本技術の修得 ③事故やケガの予防・防止 ④感染症予防・対策	①準備運動を念入りに実施し、ランニングや体づくり運動を積極的に取り入れる ②基本動作の反復練習を積極的に取り組む ③体育用具や施設・設備の点検、準備運動やクールダウンを実践する。また、日陰での休憩や、水分補給をこまめに取り入れる。 ④情報収集と密の回避、マスク着用、手洗いの徹底	①A ②B ③A ④A 総合A	①準備運動や補強運動の時間を多めに取り、必ずランニングを実施した。場所の使い方を工夫し、積極的に体づくりに取り組んだ。 ②担当者によって統一できていない部分があった。 ③用具の補充やコートに移設等を実施できた。準備運動、休憩、水分補給は、十分に実施した。 ④意識して声かけをし、注意喚起を積極的に行った。	①③④は、継続して取り組む。 ②年度初めに再確認し、統一する。
外国語	①5技能の能力向上 ②外国語を学び、使うことを通して、外国の様々な文化（習慣や言語文化など）に関心を持つ。 ③中高一貫教育において、各段階で達成すべきCanDo Listの作成 ④文法や語彙学習に関して、小学校外国語教育の良さや流れを組んだ授業設計	①授業の内外で「知る・使う」学習のバランスを設計する。また、Speaking試験やEssay Writingの時間を設ける。 ②Readや各セクションの教材の内容に合わせ、言語材料のみに着目するのではなく、彼らに活動させることを通して、文化間の相違点や共通点を体感させる。 ③中学部・高校部で話し合い、高Ⅱの段階で達成すべきゴールから逆算してリスト作成にかかる。ゴールは5技能で設定する。 ④「学んで使う」流れのみではなく、「使いながら、一定期間後理論を学ぶ」流れを授業の中に組み込む。同時に、「学んで使う」中学の流れもバランスよくさせる。	①A ②B ③C ④B 総合B	①各英語の授業やALTの授業の中で、生徒に英語を使わせる時間は多く設定できた。また、課題等でもWritingや音読を徹底させた。 ②言語材料のみ目を向けた授業は少なかった。しかし、教材のみならず、実際に文化的違いを体験するような交流や仕掛けが必要。 ③着手できていない。 ④今年度の中学1年生に実施。使わせて、形に慣れた上での指導だったため、定着度は高かった。しかし、Classroom Englishを「使わせる」ことまで至らなかった。また、中学の「学んで使う」の流れを汲んだ学習に生徒の大きな抵抗を感じた（動詞の過去形など）。	①継続して取り組む。 ②教材の内容を吟味する時間が必要。また、海外とのアクセスが必要。 ③長期の休みを利用して会議する。 ④継続して取り組む。
技術家庭	①自立の基礎を固める ②共生を学び合う ③現代社会に対応できる力をつける	①基礎基本の徹底 ②実習・実験内容の精査 ③研修・研究の実施	B	1、2年は食生活を中心に、消費生活、家族家庭と保育分野、3年生は環境と住生活の分野のにおいて、授業を進めた。基礎基本を身に付けるよう、要所要所で確認のための小テストを行ったが、その結果が学期末のテストでは出ていない生徒もいた。 実習については、コロナ渦で調理実習ができなかったが、家庭での調理につなげ、レポートを書かせたり、3年は理想の住まいについて、収入と職業との関連も含めて考えることができた。	今年度よりも小テストの頻度・内容を精査し、将来や、学期末考査につながるような学習活動をしたい。 来年度は動画でなく実際の調理実習もできるよう、クラスを分けたりと工夫できないか検討したい。 消費生活の分野で新たに増えた内容など研修や教材探しをしていきたい。

4段階評価	A：大いに改善あり　B：だいたい改善あり
	C：やや改善なし　　D：全く改善なし